

# 海外派遣留学プログラム月間報告書

報告期間：01/09/2018~01/10/2018

## 1. 勉学の状況

大学の授業は9月10日からでしたが、その前の週からオリエンテーションやショートトリップなどがありました。オリエンテーションでは、入学試験を受けて入学した full-time student の人と、私のような交換留学で来ている exchange student、visiting student に分かれて、大学の履修登録の仕方やタイの風習について説明を受けました。

授業は、タイ語、観光に関する基礎知識を養うクラス、観光に関する経済と取引を学ぶクラスの3つを取っています。一つの授業が2時間から3時間でそれが週に2回ほどあります。先生はほとんどがタイネイティブの人なので、訛りがあり聞き取りづらく、いくつかのクラスでは質問がタイ語で行われるため、内容を理解するのがなかなか難しいです。しかし、これからの社会で非英語ネイティブの人とは交流することが多くなることを考えると、慣れておくのは有意義だと思います。

私の授業日程は、月曜日、火曜日、水曜日、土曜日なので、休みの日に泊まりで旅行に行くことが出来ません。この点は、次の時間割を気をつけながら決めるしかないですが、基本的に授業が行われる日程は履修登録締め切り直前まで変動します。なので、ほとんどの場合、留学生特典の早期履修登録は、変更が必要になります。この点にだけは、改善すべきだと感じました。

しかし、うれしいことにフィールドワークとして、五つ星ホテルを見学させてもらい昼食buffetを食べることが出来ます。しかも、交通費など含めて全て無料です。留学生はマヒドン大学に在学している期間はインターンなどが禁止になっているので、このような体験は非常にうれしいです。

## 2. 生活の状況

意外にも、留学生の多くはアメリカやイギリスなどの母語が英語の人が多く、アジア系の人はいくつかの少数派でした。私のアメリカ人友達になぜ留学先をタイにしたのか尋ねると、「アメリカ人は世界中どこに行ってもいるから、コミュニティーが出来ることが多い。だけど、留学してアメリカ人としかいないのは、留学する意味がない。だから、あまりアメリカ人が進出していないようなタイにしたんだ」と教えてくれました。そういうアメリカ人が集まって、マヒドン大学でもコミュニティーを形成しています。

マヒドン大学には、日本語クラスがあり、私も参加させてもらっていますが、千葉大学の第二外国語とは比べものにならないレベルです。一番上のクラスは、授業の全てを日本

語で行っています。たった一年でここまで話せるようになるのかと感心しました。私は中学から英語を勉強してきて7年ですが、未だに英語を話すことに躊躇してしまいます。

この日本語のクラスでも、ネイティブである自分が何か貢献できればと思います。

# 海外派遣留学プログラム月間報告書

報告期間:01/10/2018~01/11/2018

## 1. 勉学の状況

10月の中旬から中間テストが始まりました。私の受けている授業では、レポートや課題などは少なく、全て筆記試験で行われました。2時間の間に一冊の冊子に書けるだけ書きなさいという流れの試験でした。タイ語訛りにもだいぶ慣れてきて、意味の分かる英語なら自然に聞き取れるくらいにはなりました。しかし、語彙や文法は、全く MUIC の学生に劣っていると感じています。MUIC ではほとんどの生徒が入学前にプレスクールに半年ほど通い、英語のみを勉強します。自分はそんな経験はないので、なんとか追いつかないと感じます。

今は、4人のグループに分かれて自分たちで hospitality に関する会社を設立するという仮定のプロジェクトを行っています。このプロジェクトでは、タイでインターネットカフェを立ち上げるために、市場調査や立地の検討などを通して需要の理解、スポンサーや銀行からの融資など供給なども考慮しています。私は、今までこのような実践的な経験をしたことがなかったので、新鮮ですが、授業なので今まで教わった理論を当てはめるだけなので、意外と出来ていて楽しいです。

テストはタイ語のクラスが満点でしたが、ほとんどのクラスが平均という感じでした。他の人は、これらの授業の前に基礎授業を受けていることを考えると、悪くはないかなと思います。新しいことを学ぶのは難しいし、周りの人に劣等感を感じてしまうのですが、本当にクラスメートが優しく助けてくれるので、タイに留学して良かったなと思います。

## 2. 生活の状況

今月は、タイの観光に出かけたりしていました。授業日程上、なかなか出かけられないのですが、せっかくタイに来ているからということで、いろいろなことに挑戦しました。一つは、JTB Thailand で研修させてもらいました。中頃に開かれていた教育イベントのお手伝いをさせてもらい、実際に海外で働くことの意味、手段や目的など多くの人とお話しできてとても有意義に過ごせました。

次に、バンコクにあるスラム街に行ってきました。幼稚園で実際に子供達と触れ合ったり、経営手法、現在の状態などを教えてもらいました。この幼稚園は、支援者も協賛者も乏しいため政府からの支援も受けられない状態でした。政府から支援をもらうには、政府に認めてもらう必要がある、しかしそうするためには幼稚園に認定される条件を超えなければいけないが、そのためのお金も資金もないという状況でした。本当に苦しいところに支援が回らないという現状に衝撃を受けました。

# 海外派遣留学プログラム月間報告書

報告期間:01/11/2018~01/12/2018

## 1. 勉学の状況

今月は、月末から12月初頭にかけてテスト週間なので、夜の8時ほどまで勉強する日が多かったです。3つの授業で合計2つのプレゼン、7つのテストを終えて無事に第一タームを終えることが出来ました。

このタームを終えて感じたのですが、やはりタイでは英語力を上げるのが難しかったです。もちろん、留学生と話したり講義内では英語で会話しますが、日常生活ではタイ語しか使いません。自分が知っている限られた語彙で会話をしたりは出来ているのかもしれませんが、語学プログラムでカナダで一ヶ月過ごしたときの方が、英語は話せていたと思います。タイで留学する意味は、日本では出来ないことが出来ることだと思います。先進国ではなかなか経験できないこと、チャレンジできないことでもタイではハードルが低いので(資金面)何かを学ぶというより何かに挑戦できる国だと感じました。

12月頭から年明けまでは冬休みなので、学校はお休みなのですが、履修登録があるのでテストが終わったら次のタームの履修を組みたいと思います。

## 2. 生活の状況

11月は22日23日にタイ北部のチェンマイでコムローイ祭り(灯籠流し)があったので、参加してきました。元々、お寺が一つの大きな灯籠を流すお祭りでしたが、最近では一般の人も小さい灯籠を流せるようになり、幻想的な雰囲気になることから有名になりました。灯籠は空高くに上がるので、その時間帯は飛行機も飛びません。会場には、日本人観光客ばかりで、まるで日本にいるようでした。

また、個人的な事件ですが、パスポートを紛失して日本に帰れなくなりました。パスポートの紛失は、再発行までに時間がかかる上に、ビザの関係もあり、いろいろなところへ行かなければいけないので、大変です。警察署に行き、パスポートがなくなった旨を伝え紛失証明書をもらい、大使館に行き再発行手続きを行い、日本から戸籍抄本を送ってもらい、大使館に受け取りに行った後、移民局に行き、入国スタンプと教育ビザの手続きをし、リエントリーパーミットをもらわないといけません。航空券の日付変更が出来ないこともあり、新しく取り直すことになり、パスポートの紛失には気をつけようと思いました。

# 月間報告書

2018.12.5－2019.1.5

## ○勉学の状況

私は、12月の初めにすべてにテストが終わったので、今回の報告期間には授業もテストもありませんでした。なので、今回は留学前半のまとめを書きたいと思います。

まず、タイ語の授業ですが、この授業に一番力を注いでいました。日常生活で使えるのはもちろんですが、タイに留学しなければ、学ぶ機会やきっかけもないので、留学が終わるまでに少くらは話せるようになりたいと思って始めました。が、3言語学ぶのは私にはタフすぎたようで、結局、英語もタイ語もそれほど上達したように感じませんでした。もちろん、語彙は増やせることができましたが、アクセントや文字の区切り(句読点などが無い)などが未だにわからず、日本に帰ってからも勉強を続けてもっと学びたいと思います。

次に、経済と金融の授業でしたが、私にとってこの授業はとても新鮮でした。今まで学んだことのない分野なので、先生に聞きに行ったり図書館で調べたりネットを使ったりしながら大変ではありましたが、点と点がつながった時の感動は大きかったです。今まで考えたこともなかった経済という視点が私の中に生まれました。金融に関しては、新事業を始めるにあたって、お金の見積もりをしていくというのが最後の課題でした。この分野を学ぶことは、利益を最大限に引き出すことなのだ、という観点の元、お金の扱うすべなどを学びました。

最後に、観光に関する基礎知識の授業ですが、この授業は私にとってあまり印象に残っていないことがあります。もちろん、この授業でも多くを学び、新たな発見もありましたが、そのほとんどが実践的なことでした。言い換えるならば、この授業では何をしても正解なのです。新しく何かを学ぶというわけではなく、自分たちで調べたり見たりすることを目的とした授業でした。

## ○生活の状況

まず初めに、パスポートをなくしました。旅行の荷造りをしていた時にパスポートがないことに気づき、慌てて大使館へ行きましたが、戸籍抄本がないと新しいパスポートが発行できなく、相当時間がかかりました。海外で紛失したのに、戸籍抄本が必要と言われても持っているはずもなく、日本から速達で送ってもらいました。

また不思議と、タイを旅行しようとは思いませんでした。カナダやメキシコに行った際は出かけたくて仕方がなかったのに、タイは全く思いませんでした。素晴らしいところはたくさんあるのですが、タイのコミュニケーションが私は苦手でした。私が頑張ってタイ語で話しても聞いてもらえなかったり、英語で返事されたりと、外国人とはっきり区別されている感じがとても嫌です(今でも感じます)。日本で、外国人に「こんにちは」と言われて、Hiと返事する人がいるのでしょうか。親切に助けてくれる人もたくさんいますが、私はいつになればこの国に受け入れてもらえるのだろうと思ってしまいます。

# 月間報告書

2019. 01. 05～2019. 02. 05

## ○勉学の状況

マヒドン大学では、1月7日から新学期が始まりました。今タームも3つの授業を履修しています。

一つは、前回に引き続きタイ語の授業です。writing では、前回でタイ文字を全て習い終えたので今タームは単語の書き取りに入っていきます。reading では、短文なら読めるようになったのでその反復練習を続けていくようです。早速、月末に最初のテストがありました。今回は、speaking でアクセントをしっかりと発音しないと加点されず、とても苦労しましたが、全体的には及第点といったところです。

二つ目は、組織のマネジメントと行動心理です。この授業は講義形式で進み、週に一回ほどディスカッションや課題が出されます。一つの組織をマネジメントする立場になった時の学問的プロセスを学ぶ授業ですが、学問というよりはだいぶ実践的な内容になっています。産業革命からの歴史から心理的なマネジメントのアプローチまで浅く広く学びます。この授業は量がとても多い上に内容が難しいので、いつもテキストを読み込んでから受けるようにしています。

三つ目は、消費者行動です。この授業が一番楽です。主に、授業は先生と生徒の会話で成り立っています。アカデミックな内容はほとんど無く日常生活の中から消費という行動を考えようという授業です。先生もとてもフレンドリーで、質問をするとすぐに丁寧な返事が返ってきます。

2月からは千葉大学からプログラムで多く来てくれるので、そちらのサポートもしつつ、頑張りたいと思います。マヒドン大学は定期的に千葉大の人が来てくれるのもいいところの一つかもしれません。

## ○生活の状況

1月からバンコク市内にある日本人向けの塾でお手伝いをさせてもらうことになりました。週三回4時間させてもらっており、バンコクまでの通いは正直つらいですが、やはり自分が役に立てることがあると充実感があります。また、バンコクには、日系企業が多くあり、そこで話を聞けるのはうれしいです。実際に海外で働くことがどういったものなのか、将来の見通しが立ちます。

前タームに比べると、精神状態は安定しているのですが、考え事をする事が多くなり、一人でいることが圧倒的に増えました。遊びに行く時間がほとんど無いのもありますが、ご飯すらも一人で食べることが多いです。せっかく留学しているんだからとも思われるかもしれませんが、自分には言葉の壁関係なく、性格が合わない友達が多かったこともあり、

交友関係を整理しました。以前書いたこともあると思いますが、基本的に常に連絡を取らないといけない人が多く、自分にはそれがとても苦痛でしたが、たくさんいない友達を作っても楽しくないので、自分の気持ちを伝え、納得してもらえない人とは関係を絶ちました。日本では当たり前に出ていたことが、留学という特別な状況下にいたことで出来ずにため込んでいました。

さて、考えることが増えたと言いましたが、勉強のことがほとんどです。私が現在学んでいる観光という分野は、学問的内容を含むことが少なく、多くが実践的内容です。言い換えるなら専門学校に近いかもしれません。このまま学び続けるのもいいかもしれません。しかし、私にはどうしてもこの状況で学ぶことの意義が感じられないのです。観光系の会社に就職する人が観光を学問として学んでいる可能性は低いと思います。それは、将来社会に出てからも学べるからではないかと考えてしまうのです。

今学んでいる授業も上層部の立場からの視点ですし、誘っていただくインターンもリーダー育成のためのものが多いです。しかし、私は将来、社会を引っ張っていく人間になりたいわけではなく、社会を支えられる人間になりたいのです。この矛盾を抱えたまま勉学を続けることに疑問を感じ始めています。

せっかく留学に来ているので、違うバックグラウンドを持った人、多くの経験をしてきた企業の人にたくさん話を聞いて、このもやもやを解消できたらと思います。

# 月間報告書

05.02.2019~05.03.2019

## ○勉学の状況

今月は中間テストがありました。私はテスト形式が一つと、レポート、それにテストではないですが小テストが2つありました。テスト形式のものは選択問題と記述式があり、これに大苦戦しました。マネージメントの授業だったんですが、扱うもの全てが新しく、セオリーなど概念は理解できるのですが、用語として覚えることに理解しました。辞書片手に授業を受けていると自分だけが取り残されている感じがします。私は英語のスキルが足りないのは相変わらずで、何をやるにしても常にみんなより遅くなってしまいます。そして、今回のテストも必死に勉強したのに、下から2番目の点数になってしまいました。しかし、不思議と悔しいという気持ちは起こりませんでした。

留学とは難しいもので、勉強と体験の妥協点を見つけなければならないと思います。もちろん大学で一生懸命学ぶことはとても重要なことです。しかし、海外に1年近くいられる体験はもう人生であるかどうか分かりません。私はこれまで留学を始めてからほとんどの時間を勉強に費やしてきました。しかし、残り一ヶ月近くになり、これまで自分はタイでどれほどの体験をさせていただこうと考え始めました。基礎知識も無く、英語が苦手な私が授業についていくには多くの時間を要するのは当たり前です。しかし、もっといろいろな体験をしたいと考えるようになりました。残すところ一ヶ月ですが、これからは様々な体験をしていきたいと思います。

筋がそれでしたが、授業に関してはこれまで通り進んでいます。ファイナルが近づいているということもあり、講義の時間以外でも作業することは増えてきましたが、まだおもりになっているということはありません。次回は、ファイナルが終わってからの提出ですが、いい報告が出来るように頑張りたいと思います。

## ○生活の様子

今月も観光と言えることは特にしませんでした。ただ、日々の生活を満喫しています。例えば、大学で開かれたフードフェスティバルに立ち寄ったり、日本からプログラムできた学生のお手伝いなどをしていました。今月は本当に多くの日本人がいて、千葉大学からの Boot プログラムでは30人近くがマヒドン大学にいます。また、最近では日本人の留学生といることが増えました。単純に同じ授業を取っているなのでその流れで一緒にいることが増えてきましたが、それ以上に留学生と仲良くなって友達を作らないとという意識が薄れてきました。自分の親しい人と時間を過ごしたいと思えるようになり、日本人留学生問わず良好な関係を築けています。変に意識せず楽に過ごせているので今が一番精神的に安定していると思います。



# 月間報告書

2109.03.05－2019.04.05

## ○勉学の様子

三月は勉強が本当に忙しかったです。これまでやってきた授業は全てレポート、プレゼン、テストが課されていたので、目まぐるしく動いていました。

**Management and Organizational Behavior** の授業では、いつも通り授業後に個人課題が課せられるだけでなく、企業に赴きインタビューをして、マネージメントの実際の現場を知るというグループワークがあり、これに苦戦しました。私以外のメンバーはタイ人で、インタビューは全てタイ語で行われました。この報告書をグループとして 15 枚、個人として 1 枚提出したのち、プレゼンテーションを行うというものでした。タイ人特有のぎりぎりまでやらない性格のせいで提出前夜は遅くまでかかりました。また、この授業は内容自体が難しく、テストに向けて多くを準備したはずですが、正直、単位が取れたかは怪しいです。しかし、これ以上ないほど勉強したなので、結果はどうであれすっきりしています。

**Consumer Behavior** の授業では、個人レポートが 10 枚、グループレポートが 15 枚ほどとプレゼンテーション、テストがありました。この授業の内容はさほど難しくないので、割とすんなりと終わりました。この授業もグループは留学生は私とカナダ人の二人だけで、タイ人はタイ語を話そうとする人がいたので、コミュニケーションは難しいかと思いましたが、結局カナダ人の人と作業していたので難なく終わりました。

しかし、タイ語の授業は今月 3 つもテストがあったので、時間に追われていました。全て **Reading, Listening, Writing, Speaking** があり、全てを準備するのは本当に骨が折れました。準備する時間もさほどなく、前日によやく始められる程度になりましたが、最終テストは手ごたえがあり、満足した結果になりました。

これまで、ここ **MUIC** で学んできましたが、総じて悪くなかったと思います。ただ、この学校は当たり前ですが、タイ人の比率が高く、すべての人が英語で話してくれるわけではありません。多くの人は英語でグループワークをしてくれますが、そうでない人もいるということを知っておく必要があります。そうなった場合、どうやって解決していくべきなのかを知るいい機会になるかもしれませんが、正直なところこのような問題は非常に面倒くさいです。最後まで、文句の多い報告書になりましたが、私がタイで勉強してみた結果は、勉強に関して言えば、ほかの国をお勧めしたいです。授業はほとんどが講義式ですし、クラス内ワークもタイ人と留学生で分かれてしまっています。もう少し、課外活動、交流があることを期待していました。

## ○生活の様子

お伝えした通り、勉強に忙しい月だったので一日遊べる日はありませんでしたが、それでも前回の報告書で決意した通り、これまでより多く出かけていました。大学の周りはもちろんですが、バンコクにも土日は出かけたりしました。これまでやっていたインターンが終わり、時

間が空いたのもありますが、この3月は本当に詰め込んだ月でした。カフェに出かけて、そこで勉強したりと勉強もおろそかにせずに頑張ったと言える月でした。

これまでの生活を振り返ってみたいと思います。今まで、留学先をタイにしたことを後悔していました。正直に言うと私はどちらかというと先進国が好きで、綺麗な町並みや美しい設備に囲まれて生活したいと考えていました。だからこそ、留学先をあえて途上国にしたわけですが、その時の自分の判断は間違っていないでした。今まで、タイというこの土地を好きになったことはありません。一度もありません。タイ人の交友関係に対する考え方、薄汚いストリート、公共の施設すら時間にルーズで、心底嫌いでした。このタイという地で私は生きているのかと何度も不安になりました。しかし、帰国を直前にした今、私はこの国を離れたいという衝動に駆られました。私はこの国が嫌いなはずなのに、なぜか涙があふれるのです。思い出すのは、授業の課題を共に頑張った仲間、最初はぎこちなかったのにいつの間にか何でも話せる仲になった友、多くの経験をさせてもらった企業の方々、何度もめげずに向き合ってくれた先生、そして初めて逃げずに取り組んだ課題やレポートの山。全てがいい思い出で、何かがかけていたらきっと私はこれほどタイを好きになっていなかったでしょう。これから、日本に帰ってしまうことがとても不安です。日本でうまくやっていけるのか、みんなと会えなくなってしまう耐えられるのか、私には自信がありません。それほどまでにわたしにとって、マヒドン大学、タイはホームになってしまいました。今まで行った国の中で、一番嫌いで、一番好きな国です。この留学を叶えてくれた、千葉大学の方々、両親、友人に感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございました。この短い期間ではありますが、たくさんお世話になりました。留学課の皆さん、このような私を力一杯サポートしていただいたこと、本当に感謝しています。本当にありがとうございました。